

技術情報

J A全農やまぐち

TAC 営農推進課 (083-988-0681)

平成27年3月27日 発行

第 197 号

麦類赤かび病の防除について

赤かび病は、被害粒が 1,000 粒に 1 粒以上混入すると販売できなくなるきわめて重要な病害です。防除時期の基準となる麦類の出穂時期は、3 月 25 日発表の山口県病害虫防除所技術資料第 10 号(別添写)では、11 月 14 日に播種した圃場では平年並～やや早いと予想されています。

つきましては、出穂状況をよく観察するとともに下記及び技術資料第 10 号を参考に、適期の予防散布が徹底されるようご指導をお願いします。

記

1 防除時期

- (1) 1 回目：最も重要な防除で、防除時期は小麦及び裸麦では開花始め、また二条大麦では穂揃期後 10 日目頃です。出穂状況を観察するとともに以下の例を参考に適期防除に努めてください。

防除時期の目安 (例) (山口県農林総合技術センターほ場：平成26年11月14日播種)						
麦種	品種	1回目防除時期		穂揃期		
		防除時期	防除時期の目安	本年予測	平年比	前年比※※※
小麦	ニシノカオリ	開花始め※	4月13～15日	4月11～12日	やや早い	前年並み ～1日遅い
小麦	ふくさやか	開花始め※	4月13～15日	4月11～12日	やや早い	前年並み ～1日遅い
裸麦	トヨノカゼ	開花始め※※	4月7～10日	4月7～8日	平年並	3～4日遅い
二条大麦	アサカゴールド	穂揃期後10日目頃	4月16～17日	4月6～7日	平年並	1～2日遅い

※ 小麦の開花始めは穂揃期後2～3日目頃、※※ 裸麦の開花始めは穂揃期～穂揃期後2日目頃
※※※ 前年比は山口県農林総合技術センター調査成績より算出

- (2) 2 回目：第 1 回目の防除後、7～10 日目頃
(3) 3 回目：第 2 回目の防除後、7～10 日目頃
(4) 詳細は病害虫防除所技術資料第 10 号を参照してください。

2 防除薬剤及び使用方法

病害虫防除所技術資料第 10 号を参照し、麦種ごとの登録内容を確認の上、適正に散布してください。なお、裸麦は大麦に含まれます。

3 赤かび病の発生生態と防除上の留意事項

- (1) 発生生態
- 病原菌は被害種子や罹病残渣、稲わら、イネ科雑草などの上で越冬し、春、胞子が飛散して穂に感染します。
 - 感染は出穂から約 2 週間が起りやすく、中でも開花期の感染が顕著です。この時期に曇天、小雨が続く、温度が高いと多発します。
- (2) 防除上の留意事項
- 3 月 25 日発表の 3 か月予報による降水量、気温は特に発生を助長する予想ではありませんが、注意は必要です。予め防除の準備を行うとともに、早めに出穂状況を確認してください。
 - 赤かび病の防除対策は予防散布が基本です。最も感染しやすい開花始め期の第 1 回目の防除は、効果の高い薬剤で防除しましょう。
 - 赤かび病の防除は、雨の多い時期でも短い晴れ間を利用して適期散布に努めることが重要です。雨間散布における降雨の影響については、水和剤では散布 30 分以降であれば強い雨 (25mm/h) が 2 時間続いても防除効果は問題になるほど低下しないとの試験結果があります。一方、粉剤では弱い雨でも 5 時間以上続けば防除効果の低下がみられます。
 - 一般に水和剤、フロアブル剤やゾル剤など液剤の効果が粉剤に比べて優れます。

平成 27 年(2015 年)3 月 25 日
山口県病害虫防除所

ムギ類の赤かび病の防除について

本年のムギ類の出穂は 11 月中旬頃に播種したほ場では平年並～やや早い見込みです。ムギ類赤かび病の防除は第 1 回目の防除が最も重要であることから、時期を逸しないよう下記により防除の徹底をお願いします。

記

1 防除時期（表 1）

- 1 回目：小麦 : 開花始め（穂揃期後 2～3 日頃）
裸麦 : 開花始め（穂揃期～穂揃期後 2 日頃）
二条大麦：穂揃期後 10 日頃（葯殻抽出期）
- 2 回目：第 1 回目の防除後、7～10 日頃
- 3 回目：第 2 回目の防除後、7～10 日頃

表 1 防除時期の目安(山口県農林総合技術センターほ場:平成 26 年 11 月 14 日播種)

麦種	品 種	1 回目 防除時期の目安	穂揃期 注 1)		
			本年予測	平年	平年比
小麦	せときらら	4/13～15	4/11～12	4/14	やや早い
小麦	ふくさやか	4/13～15	4/11～12	4/14	やや早い
裸麦	トヨノカゼ	4/7～10	4/7～8	4/7	平年並
二条大麦	アサカゴールド	4/16～17	4/6～7	4/7	平年並

注 1) 推定有効茎数の約 80～90%が出穂した日で、出穂期(全茎数の約 40～50%が出穂した日)の約 2 日後。

注 2) 防除時期は、播種時期や肥培管理、出穂期前後の気象条件で前後するため、ほ場をよく観察する。

2 防除薬剤

表 2、3 による。

3 防除上注意すべき事項

- (1) 11 月中旬までに播種したほ場の出穂期では、平年並～やや早く、11 月下旬以降に播種したほ場の出穂期は平年並～やや遅い見込みであるため、今後の出穂状況に注意する。
- (2) 穂に症状（桃色のかび）が認められるのは乳熟期以降であるため、症状がみられなくても、3 回の防除を必ず実施する。
- (3) 開花期が最も感染しやすいので、防除時期（表 1）が遅れないようにする。
- (4) 農薬使用基準を遵守する（表 2、表 3）。なお、農薬散布の際は他作物に飛散しないように注意する。
- (5) ほ場近辺の枯草やイナワラは、伝染源となるので除去する。

表2 ムギ類赤かび病の主要防除薬剤(平成27年3月25日)

麦類、麦

系統	殺菌剤	一般名	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
ベンゾイミダゾール	1	チオファネートメチル水和剤	トップジンM水和剤(普)(A)	1000~1500倍、60~150リットル/10a	収穫30日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は1回以内)	散布	チオファネートメチル3回以内(但し、種子への処理は1回以内、出穂期以降は1回以内)	「麦類(小麦を除く)」で適用
		チオファネートメチル粉剤 2%	トップジンM粉剤DL(普)(A)	4kg/10a	収穫14日前まで				
ステロール生合成阻害	3	トリフルミゾール水和剤 30%	トリフミン水和剤(普)(B)	1000~2000倍、60~150リットル/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	トリフルミゾール3回以内(但し、種子粉衣は1回以内)	—
		メトコナゾール水和剤 18%	ワークアップフロアブル(普)(B)	2000倍、60~150リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	メトコナゾール2回以内	「麦類(大麦を除く)」で適用
		メトコナゾール粉剤DL 0.7%	ワークアップ粉剤DL(普)(B)	3kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	メトコナゾール2回以内	—
トリアクレート	11	クレソキシムメチル水和剤 44.2%	ストロビーフロアブル(普)(B)	2000~3000倍、60~150リットル/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	クレソキシムメチル3回以内	「麦類(小麦を除く)」で適用
—	M2	水和硫黄剤 52%	サルファーゾル(普)(A)	400倍	—	—	散布	—	—
	M2	石灰硫黄合剤 27.5%	石灰硫黄合剤(普)(A)	50~60倍	—	—	散布	—	—
有機リン、ベンゾイミダゾール	1	MEP・チオファネートメチル粉剤 3.2%	スミトップM粉剤(普)(B,A)	4kg/10a	収穫14日前まで	1回	散布	MEP1回、チオファネートメチル3回以内(但し、種子への処理は1回以内、出穂期以降は1回以内)	「麦類(小麦を除く)」で適用 アブラナ科作物には、薬害を生じるおそれがあるので、かからないよう注意して散布する。

小麦

系統	殺菌剤	一般名	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
ベンゾイミダゾール	1	チオファネートメチル水和剤 70%	トップジンM水和剤(普)(A)	1000~1500倍、60~150リットル/10a	収穫14日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は2回以内)	散布	チオファネートメチル4回以内(但し、種子への処理は1回以内、散布及び無人ヘリ散布は合計3回以内、出穂期以降は2回以内)	—
		チオファネートメチル粉剤 2%	トップジンM粉剤DL(普)(A)	3~4kg/10a					
ステロール生合成阻害	3	プロピコナゾール乳剤 25%	チルト乳剤25(普)(B)	1000~2000倍、60~150リットル/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	プロピコナゾール5回以内(但し、根雪前は2回以内、春期以降は3回以内)	—
		テブコナゾール水和剤 40%	シルバキュアフロアブル(普)(B)	2000倍、60~150リットル/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	テブコナゾール3回以内(但し、根雪前は1回以内、融雪後は2回以内)	—
トリアクレート	11	クレソキシムメチル水和剤 44.2%	ストロビーフロアブル(普)(B)	2000~3000倍、60~150リットル/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	クレソキシムメチル3回以内	—
—	M7	イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤 40%	ベルコート水和剤(普)(A)	1000~2000倍、60~180リットル/10a	収穫21日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は1回以内)	散布	イミノクタジン4回以内(但し、種子への処理は1回以内、散布及び無人ヘリ散布は合計3回以内、出穂期以降は1回以内)	—
ベンゾイミダゾール	M7, 1	イミノクタジン酢酸塩・チオファネートメチル水和剤 15.7, 26.2%	ベフトップジンフロアブル(劇)(A,A)	800~1000倍	収穫14日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は1回以内)	散布	イミノクタジン4回以内(但し、種子への処理は1回以内、散布及び無人ヘリ散布は合計3回以内、出穂期以降は1回以内)、チオファネートメチル4回以内(但し、種子への処理は1回以内、散布及び無人ヘリ散布は合計3回以内、出穂期以降は2回以内)	—

小麦

系統	殺菌剤	一般名	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
有機リン、ベンゾイミダゾール	1	MEP・チオファネートメチル粉剤 3.2%	スミトップM粉剤(普)(B,A)	4kg/10a	収穫14日前まで	1回	散布	MEP1回、チオファネートメチル4回以内(但し、種子への処理は1回以内、散布及び無人ヘリ散布は合計3回以内、出穂期以降は2回以内)	アブラナ科作物には、薬害を生じるおそれがあるので、かからないよう注意して散布する。

大麦

系統	殺菌剤	一般名	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	使用方法	成分含む 使用回数	備考
ステロール生合成阻害	3	メトコナゾール水和剤 18%	ワークアップフロアブル(普)(B)	2000倍、60~150リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	メトコナゾール2回	—
		テブコナゾール水和剤 40%	シルバキュアフロアブル(普)(B)	2000倍、60~150リットル/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	テブコナゾール2回以内	—
		プロピコナゾール乳剤 25%	チルト乳剤25(普)(B)	1000~2000倍、60~150リットル/10a	収穫21日前まで	1回	散布	プロピコナゾール1回	—

表3 無人ヘリコプター用のムギ類赤かび病の主要防除薬剤(平成27年3月25日現在)

麦類

系統	コ殺菌剤	一般名	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	成分含む 使用回数	備考
ベンゾイミダゾール	1	チオファネートメチル水和剤 40%	トップジンMゾル(普)(A)	8倍,0.8リットル/10a	収穫21日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は1回以内)	チオファネートメチル3回以内(但し、種子への処理は1回以内、出穂期以降は1回以内)	小麦を除く

注) 本表の薬剤については、麦類の使用法(無人ヘリ)に対し登録がある場合、すべて記載しています(但し、有機リン剤を含む薬剤および本県で流通がない薬剤を除く)。

小麦

系統	コ殺菌剤	一般名	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	成分含む 使用回数	備考
ベンゾイミダゾール	1	チオファネートメチル水和剤 40%	トップジンMゾル(普)(A)	8倍,0.8リットル/10a	収穫14日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は2回以内)	チオファネートメチル4回以内(但し、種子への処理は1回以内、散布及び無人ヘリ散布は合計3回以内、出穂期以降は2回以内)	—
ステロール生合成阻害	3	プロピコナゾール乳剤 25% テブコナゾール水和剤 40%	チルト乳剤25(普)(B) シルバキュアフロアブル(普)(B)	8倍,0.8リットル/10a 16倍,0.8リットル/10a	収穫7日前まで 収穫7日前まで	3回以内 2回以内	プロピコナゾール5回以内(但し、春期以降は3回以内) テブコナゾール3回以内(但し、根雪前は1回以内、融雪後は2回以内)	—
ーベンゾイミダゾール	M7 1	イミノクタジン酢酸塩・チオファネートメチル水和剤 15.7,26.2%	ベフトップジンフロアブル(劇)(A,A)	8倍,0.8リットル/10a	収穫14日前まで	3回以内(但し、出穂期以降は1回以内)	イミノクタジン4回以内(但し、種子への処理は1回以内、散布及び無人ヘリ散布は合計3回以内、出穂期以降は1回以内)、チオファネートメチル4回以内(但し、種子への処理は1回以内、散布及び無人ヘリ散布は合計3回以内、出穂期以降は2回以内)	—

注) 本表の薬剤については、小麦の使用法(無人ヘリ)に対し登録がある場合、すべて記載しています(但し、有機リン剤を含む薬剤および本県で流通がない薬剤を除く)。

大麦

系統	コ殺菌剤	一般名	商品名	希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	成分含む 使用回数	備考
ステロール生合成阻害	3	プロピコナゾール乳剤 テブコナゾール水和剤 40% メトコナゾール水和剤 18%	チルト乳剤25(普)(B) シルバキュアフロアブル(普)(B) ワークアップフロアブル(普)(B)	8倍,0.8リットル/10a 16倍,0.8リットル/10a 10~16倍,0.8リットル/10a	収穫21日前まで 収穫14日前まで 収穫14日前まで	1回 2回以内 2回以内	プロピコナゾール1回 テブコナゾール2回以内 メトコナゾール2回以内	—

注) 本表の薬剤については、大麦の使用法(無人ヘリ)に対し登録がある場合、すべて記載しています(但し、有機リン剤を含む薬剤および本県で流通がない薬剤を除く)。